

## Ⅱ 成果のあった学校の特徴ある取組

### 1 学力向上総合対策事業における組織的な取組

学力向上総合対策事業の指定校では、組織的に取り組むために様々な取組が行われています。ここでは、「授業モデル」を中心とした取組と「ノート指導」の取組について紹介します。

#### 授業モデルを中心とした取組

この地域の指定校では、小・中学校のすべての教科において、日々の授業で共通して取り組む「授業モデル」を作成し、この授業モデルに、単元や一時間の授業で付けたい力などを明確にした「授業づくりシート」や「通過率30%未満の児童生徒への手立て」を関連付けて取り組んでいます。

#### (1) 授業モデル

指定校の教員が、どの学年のどの教科においても教科指導と生徒指導の一体的な取組を同じ考え方で指導できるよう、1時間の授業モデルを作成しています。

時間	活動	小学1・2・3・4年生	小学5・6・中学1年生	中学2・3年生	通過率30%未満の児童生徒への手立ての例
授業前	準備	□授業に必要な道具を準備して休憩する。 教科書、ノート、鉛筆、消しゴム、赤鉛筆、青鉛筆、定規、下敷き		教科書、ノート、鉛筆(シャープペンシル)、消しゴム、色ペン、ラインマーカー、定規、下敷き	
		□席について、チャイムを聞く。【レベル3 レベル4をめざそう】			
授業	開始	□大きな声で始まりのあいさつをする。「お願いします」			
	つかむ	□めあて「～が分かる」「～ができる」を確認する。			
	かんがえをもつ	□利き手側にノート、反対側に教科書を置き、正しい姿勢で、丁寧に書く。 □ノートに自分の意見や考えを書く。			② ③
		□今までの学習内容や経験を活かして、自分の考えを持って書く。	□根拠をもとに自分の考えを書く。 □自分の考えを順序立てて書く。	□情報を整理し、根拠づけて自分の考えを書く。 □自分の考えが相手に伝わるように書く。	
	ふかめる	□話し合いをする。【伝え合おう】【結論先行・ナンバリングを使おう】			④ ①
		□自分の思いや考えを伝える。 □友だちの考えを分かるうとする。	□目的に沿って話し合う。 □まとめて、全体へ伝える。	□目的に沿って話し合い、自分の考えを深める。 □キーワードを見つけ出す。 □まとめて、分かりやすく全体へ伝える。	
		□自分の考えをはっきり話す。 □静かに挙手する。指名されたら「はい」と返事をし、起立して発表する。 □主語をつけて最後まで話す。 □聴き手を想定し身体を向けて届く声の大きさで話す。			
		□話し手に身体を向けて、最後まで聴く。【メモをとってみよう】			
	ふりがえる	□大事なことを落とさず聴く。	□自分の考えと比べながら聴く。	□自分の意見との共通点、相違点を考えながら聴く。	
		□キーワードを使ってまとめる。 □学習したことからキーワードを見つけまとめる。			⑤
□めあてを意識して、キーワードをもとにまとめる。					
□めあてに沿った振り返りをする。 【「分かったこと」「分からなかったこと」「次にかんばること」】					
		□学習して分かったことやよく分からなかったことを振り返る。	□学習で理解できたことや疑問点を振り返る。	□学習の成果や課題について整理し学習を振り返る。	
終了	□大きな声で終わりのあいさつをする。「ありがとうございました」				
授業後	片付け	□授業で使った道具を片付け、次の準備をする。			
	家庭学習	□出された宿題は、その日のうちに取り組む。 □決まった時間に、決まった場所で学習を始める。 □1時間以上の学習時間を確保する。 □「自主学习ノート」を活用する。			

## (2) 授業づくりシート

「授業づくりシート」には、単元における「付けたい力」を明確にするとともに、その力を付けるための1時間ごとの『めあて』と『まとめ』を示しています。さらに、「通過率30%未満の児童への手立て」を示し、単元全体を見通した計画になっています。

学年・教科名		第3学年 算数	
単元名		□を使った式	
付けたい力		数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。	
「めあて」 (上段) 「まとめ」 (下段)	1	分からない数の求め方を考えよう。 分からない数を□にして式を立てて考えると、分かりやすい。	
	2	ひかれる数が分からないときの求め方を考えよう。 ひかれる数が分からないときは、数を当てはめたり、たし算をしたりして求めることができる。	
	3	ひく数が分からないときの求め方を考えよう。 ひく数が分からないときは、数を当てはめたり、ひき算をしたりして求めることができる。	
	4	1人分の数が分からない場合の求め方を考えよう。 1人分の数が分からない問題はかけ算の式に当てはめたり、わり算をしたりして求めることができる。	
通過率30%未満の児童への手立て		<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文の音読を繰り返す。</li> <li>・問題文の場面絵を提示したり、操作活動をさせたりして、問題場面を的確に把握できるようにする。</li> <li>・問題文の分かっていること、問われていることに線を入れたり、言葉で表現したりし、言葉の式と□を使った式を結び付けながら、数量の関係を捉えられるようにする。</li> <li>・テープ図を書く練習をする。</li> <li>・問題文をテープ図に表し、数値を入れ、数量関係を捉えさせる。</li> <li>・数を易くして、場面を把握をさせ、□の求め方を考えさせる。</li> <li>・理解や発表の手立てとなるような掲示物や話型などを用意する。</li> <li>・話型を提示し、単元全体で何度も問題の考え方を説明し合う。</li> <li>・ペア学習や小集団での説明活動をさせ、理解を深めたり、自信を持って発表できるようにさせたりする。</li> <li>・□に当てはまる数の見当をつけたり、テープ図を書いたりする手立てになるようなヒントカードを活用する。</li> </ul>	

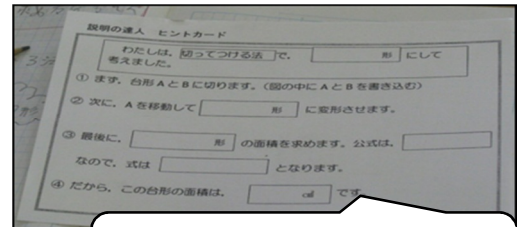
## (3) 授業モデルにおける「通過率30%未満の児童生徒への手立て」の具体例

作成した「授業モデル」のそれぞれの活動において、通過率30%未満の児童生徒にどのような手立てをするのかを具体的に考えて取り組んでいます。

### ① 構造的な板書

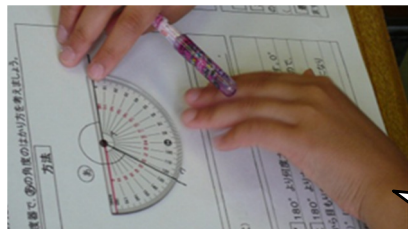


### ② 自力解決の手立てとなるワークシート



自分で考えることができるようワークシートを工夫します。

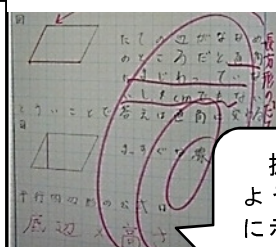
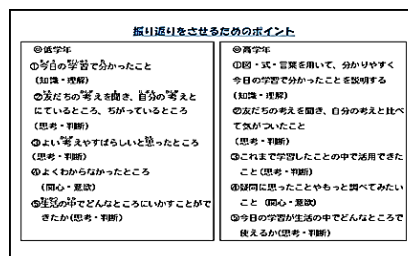
### ③ 個に応じたヒントカード



1時間の思考の流れが明確になり、考えを深めたり、振り返ったりする有効な手立てとなります。

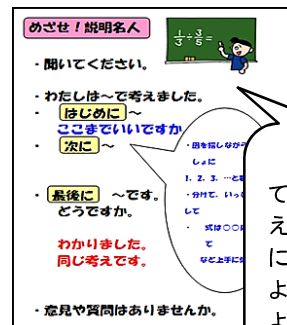
つまずきを想定してヒントカードを作成します。

### ⑤ ポイントに沿った振り返り



振り返りとして、何をどのように書けばよいかを具体的に示します。児童生徒の振り返りは丁寧に評価します。

### ④ 論理的な説明



話型を示して、自分の考えをどのように表現すればよいか分かるようにしています。

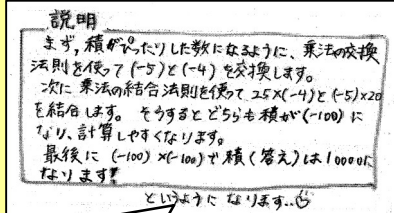


## フリースペースを活用したノート

(重点項目②に関する取組)

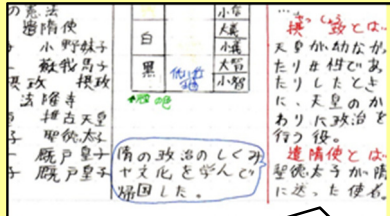
メモを取ったり、自分の考えを書いたりすることができるように、ノートにフリースペースを設けさせ活用させています。

### 【数学】家庭学習で活用



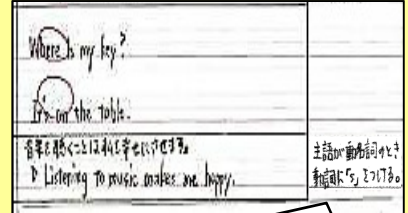
家庭学習でも、解き方の説明を書いています。

### 【社会】重要な情報のメモ



重要語句についての情報をすばやく書き残しています。

### 【英語】大切なポイントをメモ



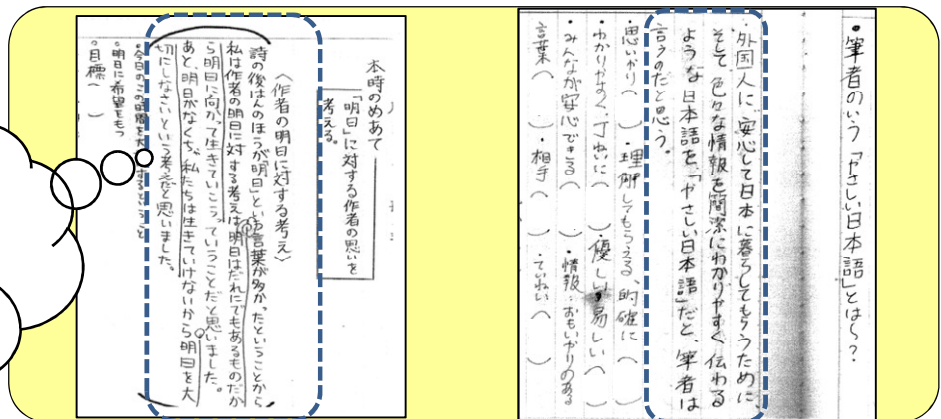
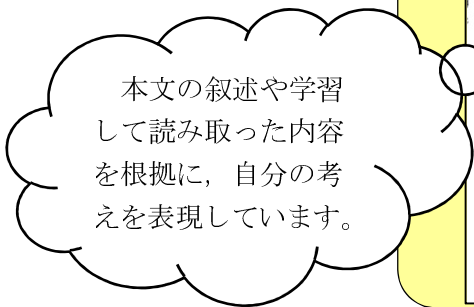
教師が説明した内容のポイントをメモしています。

## 自分の考えを表現したノート

(重点項目③に関する取組)

自分の考えがしっかり書かれたノート、学習内容が整理されているノートなどを掲示して、表現の仕方、ノートのまとめ方の参考にさせています。

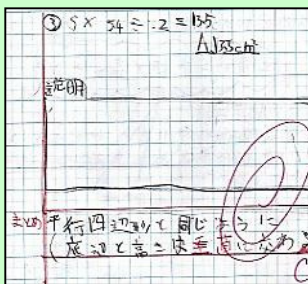
### 【国語のノート例】



## ～このような取組をしている指定校もあります～

算数科の授業において、書くことが苦手であった児童に、モデルとなるノートのコピーを貼らせ、そのモデルを参考に書かせる指導を行いました。そして、改善が見られるたびに肯定的評価を行った結果、短期間でノートが変化しました。

算数ノート  
指導前



算数ノート  
指導後



肯定的評価

肯定的評価

肯定的評価

### <資料提供>

- ・福山市立幸千中学校区小中連携地域
- ・尾道市立向東中学校区小中連携地域
- ・三次市中中連携地域